宇佐の偉人、日本三大疎水の父「南一郎平」とは？

問合せ／総合政策課 企画調整係（℡㉗8109）

水利事業に取り組むまで

南一郎平は、天保7（1836）年に金屋の庄屋である南宗保（むねやす）の長男として生まれました。当時、一郎平が暮らしていた駅館川東岸の台地は、川より20m以上高台にあり、水を引くことができず米を作れなかったため、人々の生活は困窮していました。

一郎平は、この台地に水を通すために既に広瀬井路の建設工事に取り組んでいた父・宗保の「米を作り地域を豊かにするように」との遺言を受け、広瀬井路の建設工事に取り組むことになりました。

難工事に入牢。苦難の末ついに完成

総延長17㎞にも及ぶ広瀬井路の工事は、その難易度の高さから過去に何度も中断していました。一郎平は私財を投げ打って工事に尽力しましたが、借金の返済ができず、入牢することもありました。

江戸から明治に変わる混迷の時代でしたが、国の援助や地元の方々、測量士や石工などの専門家の力を結集し、8年の歳月をかけ、明治6年に広瀬井路を完成させることができました。着工から完成まで120年もの歳月を要することとなりましたが、広瀬井路のおかげで駅館川の東岸の台地にも水田が広がり、人々の生活は豊かになっていきました。

その後、一郎平の卓越した技術力が後の総理大臣となる松方正義の目に留まり、活躍の場を全国へと移すこととなります。

宇佐での活躍後、その力を全国へ

松方正義の招きにより上京した一郎平は、後に日本三大疎水と呼ばれる安積疏水（あさかそすい）（福島県）や那須疏水（栃木県）、琵琶湖疏水（京都府、滋賀県）など、多くの水利事業に携わり全国にその技術を伝えました。数々の功績を評価しようという話が度々起こりましたが、一郎平は「ただ人々の暮らしがよくなれば」とかたくなに拒んだと言われています。その欲のない人柄から、松方正義は後に一郎平を「隠れたる実業界の偉人」と賞賛しました。その後、一郎平は全国各地の鉄道事業に携わり、大正8年に83歳でその生涯を終えました。

琵琶湖疏水

宇佐学マンガシリーズ⑤
南一郎平

電子版はこちら

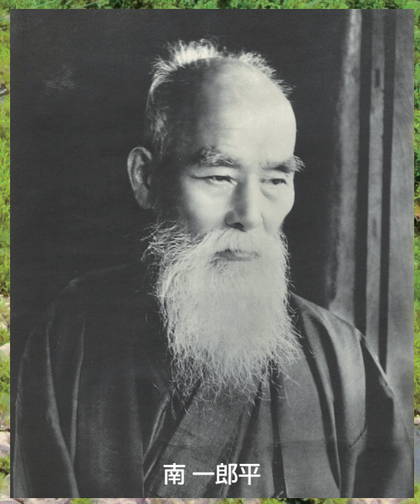
座右の銘

「一日学（いちにちがく）」

今日一日だけはと努力し続けると一生続けて学ぶことができること。

「自彊不息（じきょうふそく）」

休みなく努力し自己を強化すること。


南 一郎平

NHK朝ドラ化を目指して

金屋地区で顕彰活動の機運が高まったことから、一郎平のＮＨＫ連続テレビ小説（朝ドラ）化を目指すため、顕彰会と市や関係機関が連携して、令和２年にＮＨＫ朝ドラ「南一郎平」誘致推進協議会を設立しました。

協議会では朝ドラ化を目指し、ＮＨＫへの要望活動や小学生を対象とした体験授業、水路見学ツアー、紙芝居の作成、市民劇の開催など、日本三大疎水の関係団体と連携しながら精力的に誘致活動に取り組んでいます。

地元での顕彰活動から世界かんがい施設遺産に登録まで

- *平成 27 年* ● 出身地の金屋で「南一郎平顕彰会」設立
  水路見学会や機関紙の発行など顕彰活動を始める
- *平成 28 年* ● 「宇佐学マンガシリーズ⑤ 南一郎平」完成
- *令和２年* ● 没後 *100* 年 広瀬井路通水 *150* 年記念式典開催
  大きな盛り上がりを見せる
- *令和３年* ● 県内初「世界かんがい施設遺産」に登録決定！
  宇佐のかんがい用水群（平田井路・広瀬井路）の歴史的・技術的・社会的価値が認められる

一郎平の功績は現在でも高く評価され続けている

広瀬井路通水 *150* 年記念碑